

## 第9回 第5の習慣 まず理解に徹し、そして理解される(2)

### 「そして理解される」編

#### そして理解される



P.371-L.2  
～ P.374

(P.371) まず理解に徹し、そして理解される。理解されることが第5の習慣の後半だ。同様に Win-Win の結果に到達するためにも不可欠である。

(P.371) 第4の習慣のところで、成熟さとは勇気と思いやりのバランスであると定義した。相手を理解するには、思いやりが要る。そして自分を理解してもらうには、勇気が要る。Win-Win を実現するには、思いやりと勇気の両方が高いレベルで必要だ。相互依存の関係においては、自分をわかってもらうことも重要なのである。

(P.371 ～) エトス、パトス、ロゴス。この順番に注意してほしい。まず人格があり、次に人間関係があり、それから自分が言いたいことを表現する。これもまた大きなパラダイムシフトである。

#### Work1

P.372 ～ P.374 にかけて、2つの対照的な例が出てきます。

- A) 「上司のリーダーシップが変わってほしいと思いながら自分のプレゼンテーションのスタイルを変えようとしなさい」例
- B) 「学部側の事情の理解に努め、かつ研究予算をもらう話を丁寧にした」例

上記の2つの例は、どのように違うのでしょうか。グループで協力して、違いを挙げてみましょう。

A) EPLの順序が違う。パトス・ロゴス・エトスになっている。

B) しっかりと相手の思いを深く洞察してからプレゼンテーションしている。

#### Work2

A. 最近あった「誰かと理解しあえなかった場面」を思い出しながら、自己観察をしてみましょう。

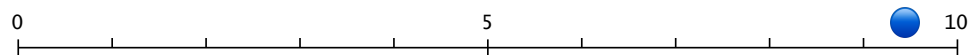
##### 【仕事編】

1. 最近、仕事で誰かと理解しあえなかった場面を思い出してみましょう。

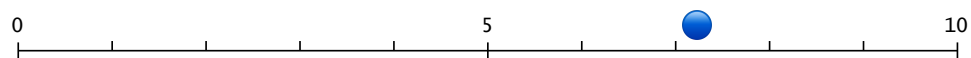
氏名 村田専務 との会話

2. そのときあなたはどんな状態で会話をしたでしょうか。下記のスケールで考えてみましょう。

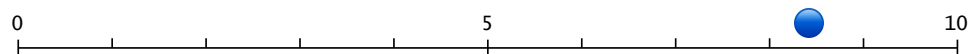
- ①あなたは、相手に理解されたいという意欲はどれくらいありましたか？



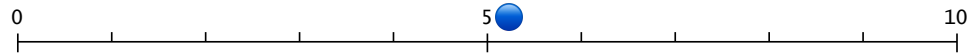
- ②あなたは相手にどれくらい信頼関係（信頼残高）をつくれているでしょうか？



- ③相手に理解されるための努力をどれくらいしましたか？



④相手に分かってもらえるようにどれくらい論理的に話せましたか？



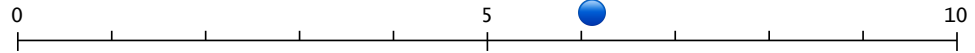
【家族編】

1. 最近、家族の誰かと理解しあえなかった場面を思い出してみましょう。

氏名 かいと ..... との会話

2. そのときあなたはどんな状態で会話をしたでしょうか。下記のスケールで考えてみましょう。

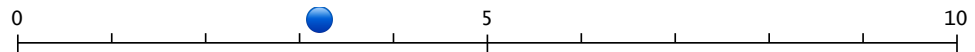
①あなたは、相手に理解されたいという意欲はどれくらいありましたか？



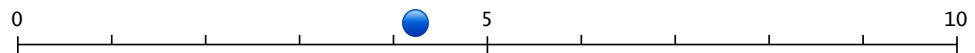
②あなたは相手にどれくらい信頼関係（信頼残高）をつくられているでしょうか？



③相手に理解されるための努力をどれくらいしましたか？



④相手に分かってもらえるようにどれくらい論理的に話せましたか？



B. 上記の Work をやってみてどんなことに気づきましたか。

本当に自分は相手に伝わるように話をできていたかどうか。。相手の常識を否定していた。

.....

.....

.....

## 一対一

 P.375  
～ P.379

(P.375) 第5の習慣の効果が大きいのは、あなたが自分の「影響の輪」の中心に働きかけるからである。他者と関わり合いを持つ相互依存の状況では、自分の力では解決できない問題や対立、自分には変えることのできない事情や他人の行動など、影響の輪の外のことが多くなる。輪の外にエネルギーを注いでいても、ほとんど何の成果もあげられず、ただ消耗するだけである。しかし、まず相手を理解する努力なら、いつでもできる。これならば、あなたの力でどうにかできる。自分の影響の輪にエネルギーを注いでいれば、だんだんと他者を深く理解できるようになる。相手の正確な情報に基づいて問題の核心を素早くつかめる。

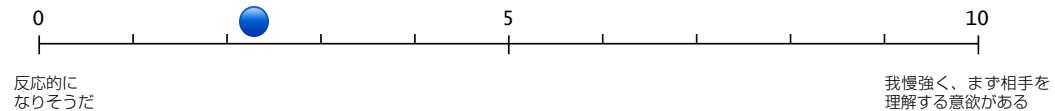
### Work3

一対一の時間を取った方がいいと思っている相手（あるいは過去そう思ったことある相手）に対してのあなたの現状（あるいはそのときの状況）を下記のスケールで考えてみましょう。

相手の例)

- ・一度話そうと思っているやる気のない部下
- ・最近反抗的な我が子
- ・大切な人だと思っているが話しくなくなっている人

●その人と話すことについて



### Work4

P.376 に「第5の習慣は、今すぐにでも実行に移すことができる」として、第5の習慣を実践するための具体的な行動が挙げられています。どんなことが挙げられているかグループでピックアップしてみましょう。

---

---

---

---

---

---

### Work5

2人一組になり、下記の会話をやってみましょう。

1. P.362 から始まる会話を父親役、息子役に分かれて会話をします。
2. 上記をやったら役割を交代します。
3. 終了したら、二人で上記をやってみた感想についてシェアしましょう。

【会話文】

子「父さん、学校なんてもういやだよ。くだらないよ」

父「学校のことですいぶん不満があるみたいだな」

子「そうなんだ。まるっきり現実味がないし、何も役に立たないよ」

父「学校には何の価値もないと思っているんだな」

子「まあ、そういうことかな。本当に役に立つことなんか何も教えてくれないよ。ジョーなんかさ、学校をやめて自動車の整備士になったんだ。結構稼いでいるんだよ。そのほうが現実的なんじゃないかな」

父「ジョーは正しい道を選んだと思っているんだね」

子「まあ、ある意味ではそうかな・・・実際、もうお金を稼いでいるんだし。でも何年かしたら、後悔するんじゃないかな」

父「ジョーは間違っていたと感じると思うんだね」

子「きっとそうだよ。だってさ、ジョーが投げ出したものはすごく大きいんじゃないかな。ちゃんと勉強しとかなないと社会に出て困るだろう？」

父「そうだな、教育は大切だと考えているんだね」

子「そうだよ、高校も出てなくて、就職もできない、大学にも行けないことになったらどうすりゃいいのさ。やっぱりちゃんと勉強しなきゃだめなんだよ」

父「教育はお前の将来に重要だと考えてるんだ」

子「うん、そうなんだ。それでね・・・ぼく今すごく困っているんだ。ねえ、母さんには言わないでくれるかな？」

父「母さんに知られたくないんだね？」

子「うーん、そういうわけでも・・・まあ、話してもいいよ。どうせばれるだろうし。今日さ、テストがあったんだ。読解力のテスト。そしたらさ、僕の成績じゃ小学四年生のレベルらしいんだ。四年生だぜ、高校二年生なのに！」

子「父さん、ぼく落第しちゃうよ。落第するくらいなら中退したほうがマシだよ。でも学校をやめたくはないんだ」

父「つらいな。どうしていいかわからないんだね」

子「父さん、どうしたらいい？」

父「そうだなあ、こういうことを考えてみたらどうだろう、というようなことはいくつかあると思うが」

子「たとえば？」

父「読解力をつけるために塾に行くとか。あそこの塾ならそのようなコースがあるんじゃないか？」

子「それならもう調べたんだ。夜の授業が週に二日、それに土曜日は一日中なんだ。時間がとられすぎる」

父「負担が大きいよなあ・・・」

子「それもそうだけど、六年生の子たちにコーチになってあげるって約束したんだ」

父「その子たちをがっかりさせたくないもんな」

子「でもね、読解力のコースが本当にためになるんだったら、毎晩でも行くよ。コーチは誰かに代わってもらってもいいんだし」

父「勉強はしなくちゃと思ってるけど、そのコースが本当に役立つかわからない、だから迷っているんだな？」

子「父さん、どう思う？」

## Work6

2人一組になり、親役、子ども役を決めます。

役割が決まったら、それぞれに配布された場面設定状況の用紙を読み、どんな状況にいるかをイメージします。イメージができたら下記の手順で、双方とも「まず理解に徹し、そして理解される」ことを意識して会話をしましょう。

\* 親役、こども役は、それぞれロールプレイする人の性別に合わせて、「お父さん、または、お母さん」「娘、または、息子」とする

1. 子ども役Aさんは、親役Bさんに相談をもちかけます。子ども役Aさんから親役Bさんに話しかけて、会話を始めてください。双方が「まず理解に徹し、そして理解される」を意識して、会話を進めましょう。8分間
2. Work をやってみて、「まず理解に徹し、そして理解される」ことがどれくらいできたか、今後どのように活かしたいと思ったかなどについてシェアし合います。各自2分間

## Work7

あなたにとって第5の習慣の具体的なPは何ですか？ また、PCを向上させるためにあなたが影響の輪の中でやっていきたいことはどんなことですか？  
P レストランの利益率は低い有意義のある事業だということを認識してもらう

PC-----会社の他の事業特性を理解し、-----それぞれの事業の意義と全体のポートフォリオのなかでの立ち位置を客観的に捉える

## 自己宣誓

今回の実践会を通じて、特に私が取り組みたいこと

レストランのことだけでなく、会社の他の事業特性を理解し、それぞれの事業の意義を深掘り、全体のポートフォリオのなかでの立ち位置を客観的に捉えていきます。

【別紙】

## Work 6の場面設定状況 子ども役用

大学四年の娘（または息子）であるあなたには、ずっと仲良くしていた友人が3人います。

2ヶ月後、卒業旅行をしようということになりました。卒業旅行には20万かかりそうです。

3人はバイトをしていたので貯金がありますが、あなたは「バイトに時間を使うのではなく、ちゃんと就活をなささい」と親から言われていたため、バイトはあまりしておらず貯金がありません。できれば親に20万出してもらいたいと思っています。

【別紙】

## Work 6の場面設定状況 親役用

大学四年の娘（または息子）の親であるあなたは、もうすぐ社会人になる娘（または息子）には経済的に自立して節度ある社会人になってほしいと思っています。

また、最近あなたは車をぶつけてしまい、結構な修理代がかかることがわかりました。まだ家族には話していません。